

**健康医療データを活用した
「地域モデルから日本モデルへ」構築
委員会(仮称)活動計画(案)**

健康医療データを活用した「地域モデルから日本モデルへ」構築委員会の活動について

1. 全国レベルでのデータ連携基盤の構築

(1) 標準化されたデータ形式とAPIの策定

異なる医療機関や自治体、研究機関などが保有するデータを相互に利用できるように、データ形式やAPIの標準化を図る必要があります。これにより、全国どこでも、安全かつ効率的に医療データを共有・活用できる基盤を構築します。

(2) セキュアなデータ管理とプライバシー保護

- ・個人情報保護法や医療情報に関するガイドラインを遵守し、データの匿名化や暗号化などの対策と患者が自身のデータ利用をコントロールできる仕組み(オプトイン/オプトアウト)を導入し、透明性を確保します。

(3) データ連携のためのシステム開発と運用:

- ・全国の医療機関や自治体などが参加できる、安全で信頼性の高いデータ連携システムを開発・運用します。
- ・マイナンバーカードを活用した本人認証システムとの連携も視野に入れます。

2. データ活用のための環境整備

(1) データ利活用に関する研究開発の推進

- ・未病指標、健康・医療データの活用による疾病予防、早期発見、治療効果の向上、医療費削減などに関する研究を推進します。
- ・AIや機械学習などの先端技術を活用したデータ分析手法の開発を推進します。

(2) データ利活用に関するガイドラインの策定

- ・医療データの二次利用に関する倫理的な課題や、データ利用者の責任範囲などを明確にするガイドラインを策定します。
- ・国民の理解と信頼を得られるように、ガイドラインの内容をわかりやすく周知します。

(3) データ利活用に関する研究開発の推進

- ・未病指標、健康・医療データの活用による疾病予防、早期発見、治療効果の向上、医療費削減などに関する研究を推進します。
- ・AIや機械学習などの先端技術を活用したデータ分析手法の開発を推進します。

(4) データ利活用に関するガイドラインの策定

- ・医療データの二次利用に関する倫理的な課題や、データ利用者の責任範囲などを明確にするガイドラインを策定します。
- ・国民の理解と信頼を得られるように、ガイドラインの内容をわかりやすく周知します。

3. 地域モデルのベストプラクティスを全国展開

(1) 成功事例の共有と普及

- ・医療未来会議で実施する検証実験及び地域で成功している医療データ活用モデルの事例を収集・分析し、全国に共有・普及します。
- ・自治体や医療機関向けの研修会やセミナーを開催し、ノウハウを共有します。

(2) 地域間の連携強化と支援

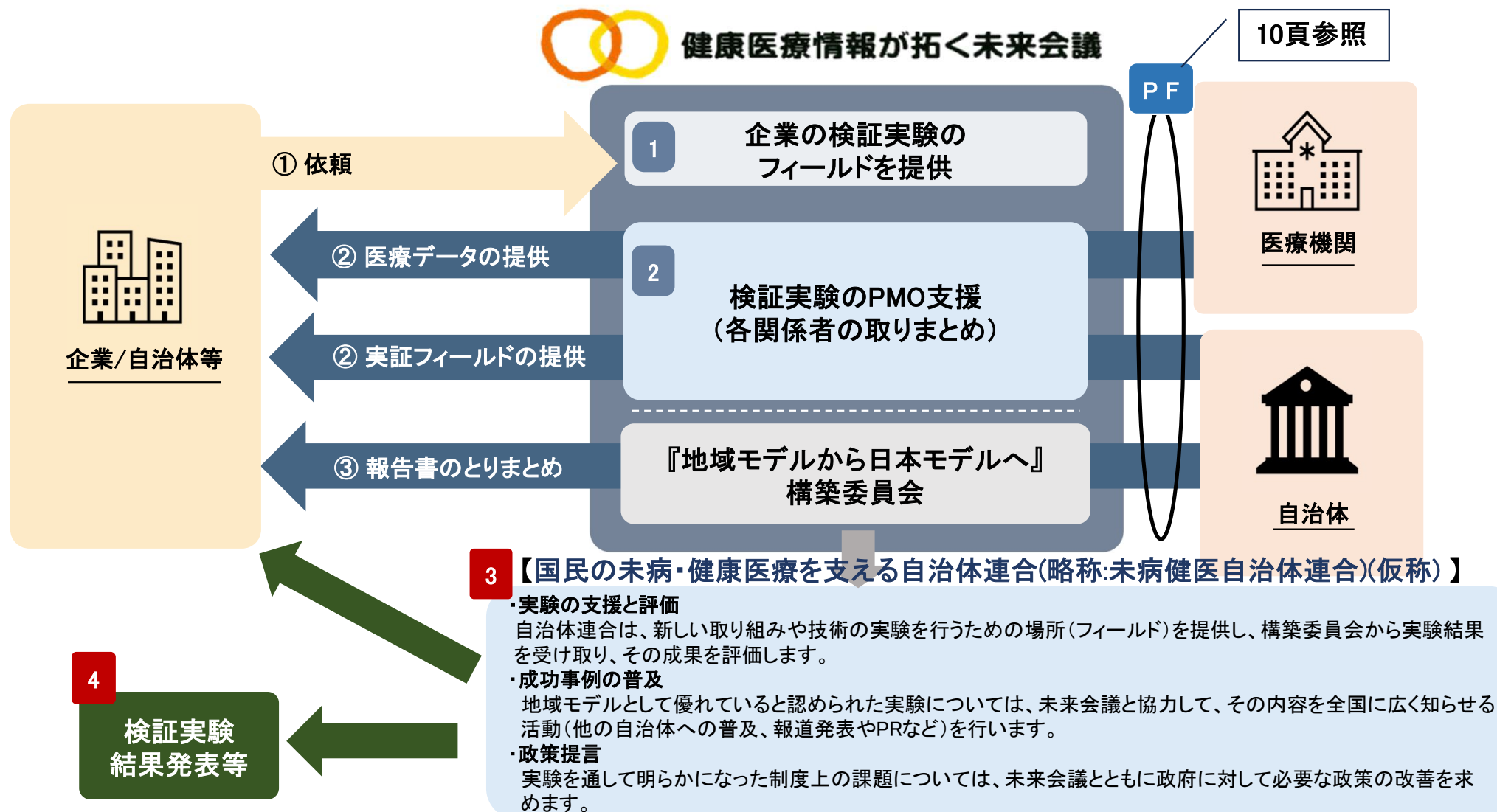
- ・データ活用の取り組みが遅れている地域に対して、専門家による支援やアドバイスを提供します。
- ・地域間の連携を促進し、データ活用の成功事例を共有するプラットフォームを構築します。

(3) 政策提言と制度設計

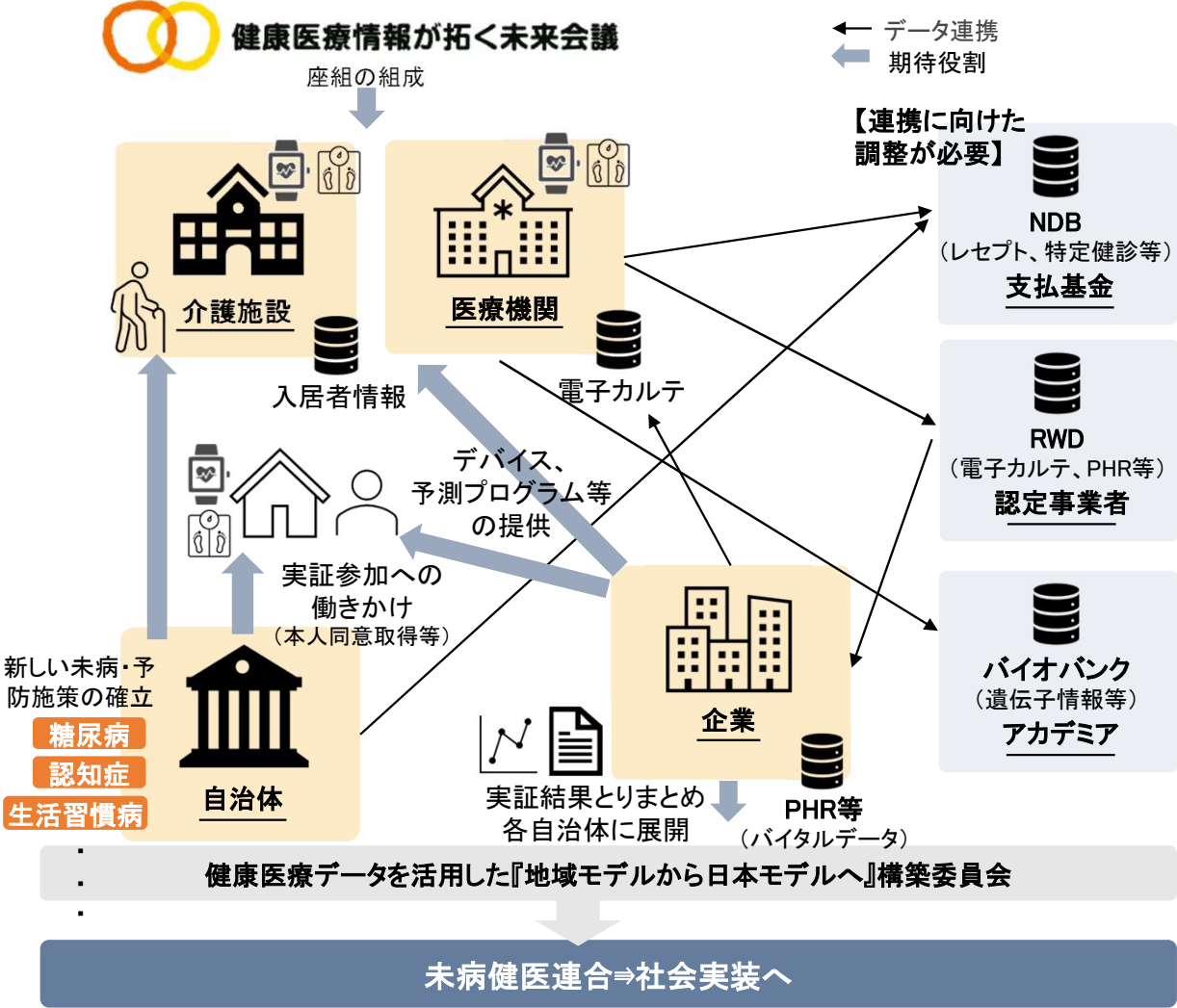
- ・地域モデルから日本モデルへの移行を円滑に進めるために、必要な政策提言や制度設計を行います。
- ・関係省庁や自治体との連携を強化し、政策実現に向けた働きかけを行います。

以上の取り組みを通じて、本年発足予定の「**国民の未病や健康医療を支える自治体連合(仮称)**」と連携して地域ごとの医療データ活用モデルを統合し、全国レベルでの医療サービスの向上と効率化を目指す。
なお、検証実験に伴う財源確保は国の関連する公募事業に申請することをまずは前提に進めます。

健康医療情報を活用した「地域モデルから日本モデルへ」の実現プロセス



未病・超早期発見を実現する健康医療データを活用した地域モデルの確立から日本モデルへに向けた仕組み(案)



【本実証研究の狙い】

未病・予防・医療に寄与する新しいソリューションの実証研究を自治体フィールドで推進し、地域住民の未病・予防・医療に貢献し、医療費・介護費の抑制や制度設計の改善につなげる継続的研究を続け、効果を検証・創出し続ける仕組みを提供します。

関係者	機能	メリット
自治体	・住民への働きかけサポート	分析レポートの提供 将来的に医療費・介護費の適正化に繋がる
医療機関・介護施設	・コホート等研究の場の提供 ・カルテ等EHRの連携 ・リハビリ結果等の連携	独自のサービスを提供でき患者に選ばれる施設になる
企業 1) 医療機器	・測定デバイスの提供 ・データ収集及び分析 ・分析結果の提供	デバイスの効果測定、販売促進に活用できる
2) システムベンダー	・予測プログラム等の提供 ・データ収集及び分析 ・分析結果の提供	プログラムの効果測定、販売促進に活用できる
3) その他 (PMO)	・官公庁への提案書等作成 ・実証研究のプロジェクトマネジメント ・報告等のとりまとめ	実証研究の支援実績を紹介できる
未来会議	・自治体、医療機関等、関係者の利害調整 ・制度設計改善案の提案 ・事務局機能	「地域モデルから日本モデルへ」の実現、健康医療データの活用や制度設計の改善を促す

【未来会議で実施する検証実験のプロセス(案)】

(1) 実験フィールドと対象者の選定

実験目的に合致する自治体フィールドと対象者を選定します。年齢、性別、既往歴、遺伝子型などの条件を考慮します。

なお、倫理的な配慮に基づき、対象者からインフォームドコンセント(十分な説明と同意)を得ます。

(2) データ収集方法の検証

- ・生活習慣(食事、運動、睡眠など)、バイタルデータ(血圧、心拍数、血糖値など)、ゲノム情報の収集方法を決定します。
- ・PHR(パーソナルヘルスレコード)アプリ、ウェアラブルデバイス、遺伝子検査キットなどを活用します。

(3) 分析方法の検証

収集したデータをどのように分析し、評価するかを決定します。AI、統計解析、機械学習、データマイニングなどの手法を検討します。

(4) ビジネスモデルの検討

コンテンツの持続的な発展のため、著作権共有やその他の収益化方法による新たなビジネスモデルを検討します。

(5) 倫理審査

実験計画を倫理審査委員会に提出し、承認を得ます。個人情報保護、プライバシー、安全性の確保などについて審査を受けます。